



Love is Free Campaign : Senegal report2014

発行日 2014年2月13日

セネガルの蚊帳の配布に至る経緯

ハイライト:

- 元全日本サッカー選手でありmufef AMBASSADORでもある岩本輝雄氏がセネガルを訪問。
- Run for AFRICA2013の収益を用いた蚊帳2000張の配布を実施
- 地元子どもたちを対象にしたサッカー教室を開催。



2013年、mufefでは、外務省、横浜市、住友化学等を始めとする各関係機関に協賛・後援を受けて6月1日に日産スタジアムで初の自主イベント「Run for AFRICA2013」を開催。その際収益の一部及びTICAD VテーマソングとなったMISIAの「MAWARE MAWARE (feat. Doudou N'Diaye Rose)」の収益の一部を用いて蚊帳配布事業を実施を決定した。

実施に当たり、テーマソングを収録した西アフリカのセネガルを配布地域として選定、また配布担当として元全日本サッカー選手でありmufef Ambassadorでもある岩本輝雄氏に協力を依頼、今回の配布事業が実現することとなった。



現地配布先と岩本氏

岩本輝雄プロフィール(元全日本サッカー選手 / mufef AMBASSADOR)

1994年にベルマーレ平塚に入団したのを皮切りに名古屋グランパスエイトを退団する2004年まで6チームに在籍。日本代表としても活躍した。2006年には、ニュージーランドのオークランド・シティFCと契約を結び、12月に行われたFIFAクラブワールドカップのオセアニア地区代表として2試合に出場。現在はサッカー解説者として活躍。2012年よりmufef Ambassadorとして、東日本大震災支援プロジェクト「HOPE FOR JAPAN」が開催するSummer Campに参加、石巻市、東松島市の子どもたちが参加するサッカー教室を主宰した。

http://www.diamondblog.jp/teruo_iwamoto/



現地NGO代表と岩本氏

セネガル共和国概要

西アフリカに位置するセネガルは、乾燥した地域。デグジュベリの小説「星の王子様」の舞台にもなった。

セネガルの人口は約1250万人。うち240万人が5歳以下の子どもである。

1960年に独立後、安定した内政と比較的安定した経済成長を続けている。日本にもタコやイカなど水産物が、セネガルから輸出されるなど、友好関係を築いている。

しかし貧困層は人口の約半数、地方で清潔で安全な水へのアクセスができるのは人口の56%など、今なお課題は多く残されている。

またセネガルでは、一年を通してマラリアが発生。4種類あるヒトマラリアのうち一番悪性度の高い熱帯熱マラリアが90%以上を占め、セネガルの主な死亡原因の一つとされ

る。

セネガルでは、全国で世界保健機関（WHO）の推奨する様々な効果的戦略が実施されたことから、マラリアの発生率は、人口千人あたり130例（2006年）から14例（2009年）と減少した。戦略では、今回配布するオリセット(R)ネットのように、防虫剤が処理された蚊帳を普及させることが推進されている。しかし、その重要性、使い方について説明を受けたにも関わらず、夜間、毎日使用していない住民もいると指摘される。

セネガルにおける5歳未満の子どもの死亡原因はマラリア。5人に1人が、命を落としている。



現地NGO「アンテルモンドINTERMONDES」



代表のママドゥ・ンジャイ

2008年に設立された、農村や都市開発など様々な分野で活動するセネガルのNGO。HIV/エイズ、結核、マラリアという3大感染症の予防活動やリプロダクティブ・ヘルスの推進、マイクロクレジット事業などその活動は多岐にわたる。代表のママドゥ・ンジャイ氏はア

フリカの国際NGO・ENDA-TM(第三世界環境開発)のもとに生まれたセネガルNGO「ENDA-Graf」での経験を活かし、幅広い活動を展開している。

INTERMONDES HP: <http://www.intermondes.org>

「全ての家庭に蚊帳を届ける」国家目標に貢献することが、今回の目標となった。



全国地図



ティエス州地図

アンテルモンドによるニーズ調査

今回の配布に当たっては、事前にカウンターパートとなる現地NGOより配布計画を提出をしてもらい、適切な配布を実施できるようにした。

今回の蚊帳の配布地域は、世界基金/イントラヘルス¹⁾のマラリア対策プロジェクトにおいて、現在アンテルモンドが対象としている地域を基本に選定。具体的な保健区²⁾は、ティエス州のチャジャイ(Thiadiaye)、プット(Pout)、ジョアル(Joal)保健区を対象に選定した。

左表は、アンテルモンドの保健・医療関連活動における、保健行政とコミュニティ組織、パートナー組織の概要となる。

1. 目標と目的

- ⇒ **全体目標：LLINのセネガルにおける全国普及目標の達成に貢献する。**
- ⇒ **目的1： 各世帯におけるLLINの使用奨励を強化**
- ⇒ **目的2： 2,000張のLLINを無料配布する**

2. 活動1：住民動員と世帯ごとの個別訪問

【住民動員】

この活動は、男性、女性、若者、成人、地方議員、コミュニティリーダーなどを対象に総計300人の住民動員を、ひと月1回、6ヶ月間実施する(合計6回)。1回の参加人数は50名を目標とする。具体的には以下の通り。

- ・ デモ行進、マラリア罹患と予防
- ・ «3 ALL(家族全員、1年中、一晚中)»のスローガンをういた蚊帳の使用を呼び掛け

【世帯戸別訪問の実施】

ひと月220回の戸別訪問による啓発活動を実施。対象となる保健ポストは3保健区で合計21か所なので、1ポストあたり10世帯/月の計算。戸別訪問により、世帯レベルの住民数や古くなった蚊帳を把握し、夜間に蚊帳を常用している住民の数についても調査することが可能。戸別訪問は、妊婦を対象に出産前相談をする機会にもなる。戸別訪問を実施するには、アンテルモンドは自身がイントラヘルスとのパートナーシップで世界基金の支援を受けたマラリア対策プロジェクトで養成された

ルレ³⁾に声をかける。

養成されたルレは全部で90名おり、同じ3保健区の合計22の保健ポストで活動している。

3. 蚊帳の配布活動

プット、チャジャイ、ジョアル保健区における長期残効型殺虫剤処理済蚊帳(long lasting insecticide-treated nets: LLIN) 2000張の配布活動

現在、LLINはWHOが推薦する蚊帳タイプとされる。その存在は広く知られているが、住民による使用はまだ十分とはいえない。

LLIN2000張の配布は、mudefとアンテルモンドのパートナーシップによる貢献で、対象3保健区における全体普及を目指す。LLINの配布は、戸別訪問の結果を受けて実施される。アンテルモンドは、世界基金・マラリア対策プロジェクトにより養成されたコミュニティ・ルレの活動を支援する。

¹⁾ IntraHealth International: ノースカロライナ医科大学を母体とし2003年にNPOとなった

²⁾ 行政区画とは別に保健省が設定する地理的区分のこと

³⁾ Relais: コミュニティレベルで活動する保健普及員

表: ティエス州: プット、チャジャイ、ジョアル保健区

DISTRICT SANITAIRE 保健区	POSTES de Santé 保健ポスト名	各保健区、保健ポストにおいて intermondesのパートナーとなっている 草の根コミュニティ組織
チャジャイ保健区	Sessene	ARPV: association des relais polyvalents
	Tigheène	ARPV: association des relais polyvalents
	Guelor Wolof	Association des relais communautaires
	Ndaraa	Association des relais polyvalents
	Ndagania	Wod Wodamel
		Union communautaire des GPF ¹⁾
	Sandara	Association pour la promotion de la santé communautaire - APSC
	Louly Nda	DEGOGUEY
	Louly Benégné	Association des relais communautaires Takou Liguéy
	Mboucène Secco	Association des ASC: mairies et relais
プット保健区	Fissel	ARPV: association des relais polyvalents
		Association des acteurs communautaires pour la promotion de la santé
		Lantime Niare
	計10か所	計13組織
	Kour Moussa	Groupeur Promotion Féminine: Fissel
ジョアル保健区		Association des Volontaires de la santé
		GPF: Sape Sa Deuvoir
	Saune	Association des Relais Polyvalents de Kour Moussa
	Ndar	Association Sportive et Culturelle: Gouye Ndeye de Ndeguère
	Thar	Association L'Esou Gu: de Diender
ジョアル保健区	Thar	Association des Relais Polyvalents de Diender
	Bayakh	ASC Fanne
	Kour Motor	GPF: Takou Liguéy
	計6か所	計9組織
	Ndéréne	Association pour la promotion de la santé de la mère et de l'enfant
ジョアル保健区		Association des relais de la zone du Nord
	Ndéréne	Action communautaire pour la santé
		ARPV
	Ndanda	Book volat
	Bancane - Bagan	Bancane - Bagan
ジョアル保健区	Fadiol	Association pour la promotion de la femme rurale
	Moudène	Ndéréne
	計5か所	計8組織

蚊帳の調達

配布を行うLLINは、住友化学株式会社より調達を行い、同社の「Olyset® NET」2000張を中国・大連の同社工場より輸送を実施した。同製品は2009年のキャンペーン開始以来一貫して使用している商品である。

同製品で採用されているのは、ポリエチレンにピレスロイドという防虫剤を練りこみ、薬剤を徐々に表面に染み出させる技術「コントロール・リリース」。研究開発を通じ、防虫剤処理蚊帳「オリセッット®ネット」が開発された。現在、WHOからも使用を推奨されており、国連児童基金（UNICEF）などの国際機関を通じて、50以上の国々に供給されている。

オリセッット®ネットの調達に当たっては1500張をmudefで、残り500張分を住友化学株式会社でマッチング寄付として購入していた。また、輸送にかかる経費も半額を負担していただいている。

これまでの蚊帳の調達は同社のタンザニア国内の工場より行っていたが、在庫の関係上中国からの蚊帳の調達となった。また、セネガル国内への輸入に当たり、アンテルモンドにmudefより正式に譲渡証書(Gift of deed)を発行、セネガル保健省からも正式に蚊帳の寄付を承認されることで、全国でのLLIN配布計画の一端として位置付けられることを可能にしている。



Intermondesより届いた蚊帳の受領書

現地視察調整

蚊帳の調達及びセネガルへの到着日程が確定した時点で、現地への視察日程調整を行った。日程については岩本氏及びアンテルモンドの受け入れ可能な日程を調整し、進めた。

また同時に年末年始など受入れが困難となる時期を避けること、及び岩本氏の体調などを考慮し、余裕を持たせ1月後半での視察を確定、最終的な日程の確定を行った。

また視察に当たってはmudefスタッフも前日にセネガル入りを行い、視察日程の最終調

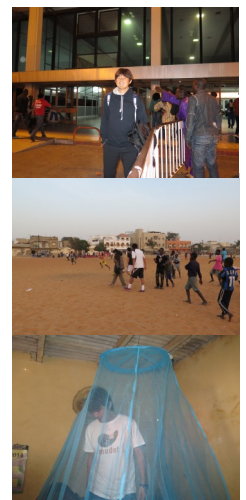
整を行った他、必要な打ち合わせも実施。また可能な場合は岩本氏の視察予定箇所も事前に確認を行うなど、調整を進めた。

最終的に1月26日深夜に岩本氏がセネガルに到着、27-29日にかけて合計3日間の視察スケジュールとなった。



視察スケジュール概要

1/25 Day1	mudefスタッフ到着 着後現地NGOと打合せ
1/26 Day2	午前 JICAと3日目視察打ち合わせ 午後 最終視察行程チェック 夜 岩本氏到着、ホテルへチェックイン
1/27 Day3	午前 ダカール市内メディアグナス地区へ 蚊帳の贈呈式に出席、家庭訪問 午後 ダカール市内でサッカー教室
1/28 Day4	午前 ティエス州へ移動、蚊帳贈呈式に出席、村に蚊帳を届ける 午後 ダカール市内でサッカー教室
1/29 Day5	午前 ダカール中央魚卸市場視察 二部リーグチーム訪問、見学 JICAセネガル事務所表敬訪問 午後 日本大使館表敬訪問 ダカールサンクレールでサッカー教室 夜 出国



1日目視察レポート



カジャの家で。



写真左：蚊帳を
設置する岩本氏
写真下：RMG
への贈呈式



アフリカ最西端の国であるセネガルは、非常にハイセンスなファッションと音楽、洗練された文化の発信地。観光シーズンでもある1月には、多くの人が訪れる。

他方、年間を通じてその生活に影響を与えるマラリアは今なお深刻だ。

今回の配布を行ったのはmufef Ambassadorでもあり、元全日本サッカー選手としても有名な、岩本輝夫さん。岩本氏にとっては、今回が初めてのサブサハラアフリカとなった。

配布を行った1日目の1月27日。この日は岩本氏はダカール市内にあるメディアグナス地区を訪問。この地区は2013年、MISIAが訪問した場所でもある。

この場所はダカール市内の中でもともと湿地帯であった場所に排水対策が十分に行われていなかったため、スラムを含む新興住宅地では汚水の混ざる浸水が長期に渡り続き、衛生環境が悪化し、マラリアなど蚊が媒介する感染症が蔓延した場所でもあった。

繰り返される大洪水、溜まった水の衛生対策は、彼らの生活に大きく影響を与えていた。道路の水はけが悪いために不安定であるほか、地区の家の中には洪水により浸水、堆積をしたために、家を追われ、新たな居住地を求める人もいた。最盛期には6万人いた人口も、洪水により45000人弱にまで減少している。

この低地で生活をせざるを得ない人の多くは低所得層であり、生活に余裕があるわけではない。不衛生な環境の生活により多くが健康への影響はもちろん、湿地によって発生するマラリアの被害を受けている。

現在ヘルスセンターに行くと蚊帳を無償で提供する試みがなされている(二つ目以降は有償)。しかしそこに行くことが物理的にも、また金銭的にも厳しい、そんな家庭のためにも、今回の蚊帳の配布は大きな意味を持っている。

この街を2013年、MISIAが訪れたとき、ファーマジェフさん、カジャサンバさんの自宅を訪ねた。大家族で洪水の危機を乗り越えたファーマジェフさんと、一人で子育てをしていて、夫は出稼ぎで帰ってきていない状況のカジャ。カジャは今回の訪問時にはマラリアを発症していた。体調が万全ではないために顔色も優れないカジャ。薬は飲んでいるとは話すものの、現地ですぐに手に入る薬が必ずしも効能が良いわけではない。

今回の蚊帳の配布方法は、蚊帳がベッドに一つ設置されることから、それぞれの家のベッドの数に応じた蚊帳を配布することとなった。ファーマジェフ氏には15張、カジャの家には9張が手渡された。岩本氏も手伝い、各ベッドにつるされた。

「寝心地いいね」と岩本氏。蚊帳を広げたベッドの中で寝てみるなど、非常にリラックスした訪問となった。蚊帳でベッドを覆うことで、特に夕方から夜間にかけて活動が活発となるハマダラ蚊から身を守り、マ

ラリアの不安から解放されることが期待される。

これらの蚊帳は、今回の配布スケジュールのアレンジメントを依頼した現地NGO「アンテルモンド」とベルギーより資金援助を受けている団体「RMG」によって配布が決められた。RMGは地区の子どものための幼稚園の運営や地区の子どものための教育支援を実施している。今回の配布でもRMGの本部を訪問。子どもたちを前に、正式な蚊帳の贈呈式を実施した。

RMGの建物屋上からは、メディアグナス地区が2012年に受けた洪水の影響を見ることができる。家の多くが洪水による影響で泥が堆積しているほか、洪水の水が今なお溜池の状態に残されていた。この水により衛生状況が悪化し、マラリアを始めとする感染症が発生する可能性も高い。

RMGは地区の保健や病人に関する情報が最も集まっている協会があることから、保健関係者にも参加してもらいながら配布となる。それによって、最も必要とするRMGでは子どもや教員、関係者の数250個を配布するほか、保健センターと連携の上で残る蚊帳の配布先を決定、維持管理することとなる。

ゴレ島へ

午後のサッカー教室の合間にダカール市内からフェリーで約20分。世界遺産でもあるゴレ島を訪問。美しい街並みと裏腹に、この地より、何千万もの奴隷がアメリカへ、カリブ海へ、ヨーロッパへと送り出された、現在は負の世界遺産とされる場所でもある。

サッカー教室

午後からはケジャワイ市内のアモ地区でサッカー教室も開催した。

サッカーが盛んなセネガルで、各地区には「フットボールアカデミー」と呼ばれる地元住民、有志が運営するサッカークラブがある。今回訪れたケジャワイ市のアモ地区では、学校の先生も運営メンバーに入ることで、学校で学ぶことだけではなくコミュニティ全体で、子どもたちの育成をサポートすることを可能にしていた。

町のあちこちに見かける広場を用いて行われている教室を岩本氏が訪問。特にユースの部では、その身体能力の高さや決して整地ではない、条件の悪いフィールドにもかかわらず、素早い動きをする若者も多く見かけられた。地面が砂地であったこともあり、岩本氏自身の参加はできなかったものの、サッカー教室メンバーとの意見交換など熱心に行われた。

2日目視察レポート



2日目は、午前よりダカールから車で約1時間。ティエス州のブット地区へ移動し、移動先での第二回配布を実施した。

オリセットネットの配布は、世界基金/イントラヘルスのマラリア対策プロジェクトにおいて、今回mudefがカウンターパートとして選定した現地NGO「アンテルモンド」が対象としている地域を基本に選定されている。具体的な保健区は、ティエス州のチャジャイ、ブット、ジョアル保健区。今回はそのうちのブット地区を訪問しました。

ブット地区には6つの保健区があり、その下で本部を入れると9つの団体が保健関連に取り組んでいます。アンテルモンド及び現地保健区の連携を得て、各地域に各100張、合計1000張を配布することとなった。

2日目の配布は、ブット地区の中でもクール・マタール村、ンジャレ村を訪問。クール・マタール村では実際に村でアンテルモンドによって訓練を受けた女性たちによるマラリア予防のためのロールプレイも行われた。ロールプレイでは、蚊帳を使わずに蚊取り線香や扇風機などで蚊を追いかけていた女性がマラリアに感染してしまったというストーリーを紹介することで、毎晩、きちんと蚊帳を使用する大切さを訴えた。

わかりやすく、また笑いも取り入れた蚊帳に集まった女性たちは大爆笑。また保健士による蚊帳の適切な使い方やオリセットネットの使用方法(耐久は5年)が紹介された。

村の贈呈式に立ち会った岩本氏からは「本当に村に来ることができて本当に良かった。蚊帳を配ることは継続したいと思う」との力強いコメントも出された。

その後移動したンジャレ村には保健ポスト(各保健区の出先機関)に蚊帳を届け、今後配布を実施するよう依頼を行った。同村には伝統的な医療

によって病気を治そうとする施設もあり、健康面で不安があるものも多く生活する。サポートを必要とする人へ蚊帳が届けられるよう、今後現地スタッフによって適切な蚊帳の配布計画が立てられ、運営される予定である。

サッカーでアフリカとつながる。

2日目は1日目に訪問したアモ地区のコミュニティが運営するサッカー学校の子どもたちとのサッカー教室を引き続き実施した。

1日目の訪問時に、同教室が砂浜でサッカーを行っており、芝のグラウンドでの練習をしていないという話に驚いた岩本氏からの提案で、mudefは日本セネガル技術学校の芝生のグラウンドを借り、グラウンドでのサッカー教室を開催、子どもたちへのプレゼントとした。

子どもたちは大喜びで小型バスに乗り込んで約30名がグラウンドにやってき岩本氏の指導でサッカー教室を開催。暗くなるまでボールを追いかけていたのが印象的でした。

セネガルは2002年の日韓ワールドカップに出場していたので、その強さの印象も強い。アフリカ出身選手のフィジカルの強さは、想像がしにくい。またセネガルに限らないが、どの国でもサッカーは非常に人気が高いスポーツで、子どもたちが広場で、ボールを追いかけて、サッカーをしている姿を見ることができると。

また将来サッカー選手になることをめざし日比トレーニングを実施するなど、彼らにとってサッカーは楽しみであると同時に、将来サッカーで成功するかもしれない、そんな可能性を秘めたスポーツでもある。



3日目視察レポート

3日目に訪れたダカール・サクレクルは、サッカー選手を夢見る子どもたちの夢への一歩となるフットボールアカデミーの一つ。プロ選手の養成や年齢に応じたサッカー教室の運営、また運営だけではなく子どもたちを対象にした情操教育が60人いる専門スタッフによって運営されている。

現在サッカー教室に通う生徒は約1500人。二部リーグにも所属するチームを持つダカール・サクレクルは、しかしながら、「経営は大変なんです」とオーナーは話す。日本では当たり前の芝生や人工芝のグラウンドは、セネガルでは一から作らないとしないいうに、その維持はクラブ運営上も大きな負担となる。現在所属し、給与が支払われているプロの選手たちは最高でも月収1000ユーロ。その多くは約500〜700ユーロだ。彼らの夢はいつかスカウトの目に留まり、ヨーロッパのサッカークラブに入団すること。またそうしたサッカービジネスもアフリカ各地で育ちつつある。

他方、このサクレクルでは、多くの国際スクールに通う子どももたくさんいることから、地区のサッカー教室とは異なり、子どもたちの間での差別が発生しないことを考慮し、サッカー教室後に開催されるアクティビティで「差別を行わないように」「マラリアに気を付けよう」「交通事故に注意しよう」などの様々な取り組みが行われている。

今回岩本氏が、在留邦人の協力を得て主催したのは、約30名のサッカー教室。日本人も7人参加した。子どもたちのミニゲームに岩本氏も参加。「運動神経良いね」と感心していた。



日本とセネガルのつながり 魚市場

視察の3日目の朝には早く出発して、ダカールにある中央卸売魚市場へ。ここは1日8500名が訪れる日本の築地のような場所だ。

セネガルは代表的な料理である「チェブジェン」という魚の炊き込みご飯にあるように、国民一人当たりの年間魚消費量が約30キログラムとアフリカ諸国の中でも突出しているほか、水産物が国民の摂取動物性たんぱく質の7割を占めることから、この卸売魚市場の存在は非常に大きな意味を持っている。

日本は1992年にODAで卸売市場の建設とブロックアイス製氷機を提供したほか、さらに市場の拡大に応じて市場の拡充を行うなど、セネガルの水産業のサポートが行われてきた。20年以上も前に設置されたブロックアイス製氷機もいまだに現役で活躍、魚を新鮮な状態でトラックに寄せ、地方で輸送するのに役立てられている。

「ここにはたくさんの魚が。
無いのはサンマくらいですね」

セネガルでは朝小舟で網や釣りでとられた魚がこの卸売市場に運ばれ、小売業者が購入、各地で販売されています。朝4時から10時ころまでにぎわう、この市場には、市場にやってくる人を目当てにした食べ物や雑貨の販売などでごった返していました。

セネガルの人にとって身近な魚は、セネガルの通貨である2000 FCFA(セーファーフラン。日本円で約400円)紙幣に印刷された魚にも見ることができる。年間漁獲量40万トンの中には日本でなじみがある魚も見られた。

日本では高級魚であるフグも、こちらでは1匹300円ほどで購入可能だ。また太刀魚やハタのような、日本でもなじみ深い魚もたくさん扱われています。「ないのはサンマくらいですかね」とは案内していただいたJICAの方からも説明される。日本にもセネガルからタコやイカ、太刀魚が輸出されている。またこの水産業も、セネガルの経済では大きな輸出品目ともなっている。



卸売場は活気にあふれている

セネガル視察を終えて（スタッフ所感）

今回の岩本氏の訪問と視察は3日間。それでもダカールやお隣のティエスでの蚊帳の配布、また子どもたちとのサッカーを通しての交流は、様々な形でセネガルの姿を見ることができた。

「セネガルは本当にいいところ。私たちみんな帰りたくないんですよ」とおっしゃる邦人の方もいた。赴任終了で帰国するのが家族全員いやなのだという。

短い滞在だったが、西アフリカ・セネガルの高い文化と魚市場に見るたくましさ、またスポーツを通じた交流は本当にうれしいものとなった。

また、今なお深刻なスラム地区や郊外でのマラリアの問題も見ることができた。「初期の治療ができればよいのですが、治療をしたくても病院に設備がなかったり、薬がないために適切な処置ができない。また病院自体が遠くて通うことができないのです」との話も飛び出していた。

セネガルでガソリンを入れると1リットル当たりの価格が日本とほとんど変わらないことに気づかされる。このことは、交通手段となるであろう車を使いたくても、ガソリン代が上がることで、病院に行きたくても行くことができないことを意味している。

また、ガソリンが値上がりすることでたとえば国民食でもある魚を地方に輸送する場合もコストが上がる可能性がある。ガソリンの値段がどれだけ彼らの生活に影響するのか、改めて感じずにはいられなかった。

「この国に暮らす人は、昔は貧しくても豊かだった。

でもそんな子ども時代を送った人が、今の生活が変貌し、近代化する一方で生活が厳しくなった」と回答しています。このことは、近代化が進んでも個人の生活が決して豊かになることを意味していないのです」と今回コーディネートいただいた方のコメントだ。

一見豊かに見えるセネガルだが、しかし一方で今なお課題となる貧困の問題。平均寿命が60歳に満たないセネガルは、その多くが5歳未満で死んでしまう子どもたちに起因する。そしてその原因が十分な栄養摂取の難しさや、不衛生な環境などで予防可能な病気により命を落とすこと。マラリアもその原因となっている。

セネガルの経済も比較的順調だとはいえ、一人当たりGDIは1920ドル(2010年、世銀)今なお厳しい貧困の課題が続いていることには変わらない。フォーマルセクターで働く人口もまだまだ多くはなく、その多くがインフォーマルセクターの従事しているといういびつさも、貧困問題を継続させている。

「またすぐ来よう」と岩本氏。mudefでも今後も引き続きセネガルをサポートできれば、と願っている。



協力団体一覧（50音順、敬称略）



- * アンテルモンド
[2日間配布視察準備、蚊帳配布実施]
- * 外務省／在セネガル日本大使館
[情報共有、大使表敬訪問]
- * 独立行政法人国際協力機構セネガル事務所
[3日目視察アレンジ、サッカー教室開催協力、事務所表敬訪問]
- * 自然科学研究機構 国立天文台
[組み立て式簡易望遠鏡提供]
- * 株式会社dmp
[ウェブサイト運営]
- * Maquita General Services
[現地宿泊、車両、通訳手配、視察コーディネート]

メディア掲載実績

- * 2014年1月27日 岩本氏へ現地メディア ENQUETE取材



- * 2014年1月28日 岩本氏へ72時間の滞在で蚊帳を配布と報道される(オンライン記事)
<http://fr.africatime.com/articles/teruo-iwamoto-ancien-international-japonais-en-visite-humanitaire-de-trois-jours-au-senegal>
- * 2014年2月20日 JICAセネガル事務所発行メールマガジンで記事掲載[予定]

簡易組み立て式望遠鏡の寄贈

今回の視察に当たり、これまでmudefの活動に協力をいただいている国立天文台より簡易組み立て式望遠鏡5台の提供を受けた。

国立天文台では、2009年から始まった「君もガリレオ！」プロジェクトの一環として実施されます。

世界天文年2009の一企画として、ガリレオが宇宙を初めて観察したものと同程度の小型望遠鏡を安価に制作してアジアを中心とした各国の子どもに配布し、かつてガリレオが体験した驚きや発見の追体験を目指す事を目的に始まった企画。mudefは2009年からこの「君もガリレオ！」プロジェクトに賛同、アフリカ(マリ、マラウイ)へ簡易組み立て式望遠鏡の配布の協力など積極的に行ってきた。

今回も同企画の協力依頼を受け、5台を提供。現地関係者とも相談の上、セネガルの現地NGOを通じて寄贈されることとなった。

途上国における理科教育の重要性はかねてより指摘されているが、現在は特にアフリカ地域で天文教育の重要性が指摘されている。国際天文学会でもこの点を受け、南アフリカのヨハネスブルグに拠点を設け、サブサハラ内での天文企画など情報を収集、蓄積に努めている。

とはいえ、簡易望遠鏡については望遠鏡で太陽を覗いてはいけないなど制約が多いために、今回は大統領夫人の関係する現地NGOに寄贈、現地での活動に役立ててもらったようにした。



支出入

①収入の部

(単位：円：消費税込み)

区分	内容	金額	構成比率	付記
寄付	Run for AFRICA収益	1,000,000		
寄付	MAWARE MAWARE収益	500,000		
事業費	Love is Free Campaign費用	1,366,230		
①収入合計		2,866,230	100.0%	

②支出の部

費目	内容	金額	構成比率	付記
航空券代	3名分	1,028,050	35.9%	
現地滞在関連費	宿泊、車両手配、通訳、コーディネーションなど含む	658,830	23.0%	4595EURO
消耗・輸送費	蚊帳購入費(1500張、セネガル)	829,350	28.9%	8550USD
蚊帳配布委託費	アンテルモンドの経費	350,000	12.2%	
②支出合計		2,866,230		

収支差額 (①-②)	0	0.0%	
------------	---	------	--

150-0001

東京都渋谷区神宮前1-14-13

Tel: +81.3.5414.7778

Email: info@mundef.net

URL: www.mundef.net



We are mundef.

一般財団法人mundef(ミュージデフ)は、「Music + Design」が組み合わせられてきた言葉。「音楽とART」を通じて、地球規模の課題を解決するために設立されました。

mundefの活動の軸は、「ミレニアム開発目標(MDGs)」。

MDGsとは、2000年、189の国の人々が同意した、21世紀の国際社会が真っ先に取り組むべき8つの課題。2015年までに国際社会が達成すべき8つの目標を掲げています。

現在mundefでは、MDGsに掲げられる8つのゴールを軸として事業を組み立て、運営しています。



* 名称 : 一般財団法人 mundef (music design foundation)

* 設立日 : 2010年5月21日

* 理事 :

[代表] 谷川寛人 (㈱リズムメディア)

[副代表] 信藤三雄 (アートディレクター)

[副代表] 久保琢郎 (ミュージシャン)

MISIA (ミュージシャン)

大宮エリー (作家/脚本家/映画監督/演出家)

後藤新治 (キョードー北陸)

堀木恵子 (堀木事務所)

松中 権 (㈱電通)

岡田武史 (元サッカー全日本監督)

清水佳代子 (㈱シミズオクト)

* 監事: 小川恵司/菅原邦彦

* 評議員:

盛田正明 ((公財)日本テニス協会)

海部宣男 (国立天文台)

橋本福治 (キョードー大阪)

菅原茂友 (㈱ハウフルス)

太田正治 (イベント産業振興協会)

* mundef MESSENGER: 岩本輝雄

Love is Free Campaignとは

マラリアの脅威にさらされる子どもたちへ予防のための蚊帳を配るキャンペーン。現地で蚊帳の配布、マラリア予防に必要な知識を伝える他、日本でマラリアの問題についての啓発を行い、子どもたちが健やかに過ごすことができる環境づくりを目指します。

2009年よりマラウイのエイズ孤児をサポートするNGO「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」とともに始めた活動をきっかけに、現在、マラウイおよびセネガルで、その活動の幅を広げています。

はじめに

2008年11月にマラウイを訪れた際、両親をエイズ関連疾患で亡くしお祖母さんと二人で暮らす少女エリナと出会いました。彼女の家で飛んでいたたくさんの蚊に衝撃を受けたことが、キャンペーンのきっかけとなりました。

エリナが通っていたエイズ孤児の支援センターが「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」でした。創始者であるチャボンバ園長は、「ひとりでも亡くなると悲しいのに、それが周りにたくさん起きました。悲しんでいる子どもたちを助けたくて、活動を始めたんです」と話してくれました。

「Love is Free. 私たちはお金はないけれど、子どもたちを抱きしめてあげられる。愛は売るものでも、買うものでも

ない。ただそこにあるものなの」

彼女と子どもたちのために、何かできることを。そんな思いから、彼女の言葉を借りて「Love is Free Campaign」はスタートしました。



キャンペーンの活動

マラリアの拡大を防ぐための有効な方法は蚊帳を使用すること。

mundefでは、現地NGOと連携してマラウイ及びセネガルで蚊帳の配布活動を行っています。配布の際には、対象者に正しい蚊帳の使用方法や、マラリア予防のために必要な知識を伝えるレクチャーを行います。

また、日本では認知が低いマラリアについて、サイトやメールマガジンの発行を通じて、マラリアに関する問題を紹介、開発途上地域でのマラリアの問題について広く伝える活動を行っています。さらに、企業の協力のもと、売り上げの一部が寄付となる商品を販売、その売り上げに基づいた蚊帳の配布を行っています。

マラリアは「ハマダラカ」という蚊が媒介する、感染症。

WHO(世界保健機構)によれば、2010年のマラリア患者数は、約2億1900万人。そのうち約66万人が命を落としました。被害者の9割はアフリカに住む5歳児未満の子どもで、1分に1人の子どものマラリアで亡くなっています。

マラリアは、「貧困の病」と呼ばれ、途上国の経済成長を妨げる要因でもあります。マラリアに罹患することで、就業や教育の機会を失い貧困から脱却できないという悪循環に苦しんでいます。マラリアによるアフリカの経済損失は年間推定120億ドル(約1.2兆円)。アフリカの経済発展のためには、マラリアの撲滅が必要不可欠です。

[HTTP://LOVEISFREE.MUNDEF.NET/](http://loveisfree.mundef.net/)

Love is Free Campaignに関する詳細は特設サイトをご覧ください。